

令和4年度北部公民館「地域の状況、地域の課題、重点目標」

1. 地域の状況

北部公民館区は、市の北東部に位置し、八千代市と隣接しており、昭和29年に船橋市と合併した旧豊富村内にある。本地域は、古い伝統が残る地域で、果樹栽培や畑作などの農業を中心としており、豊かな自然が残る貴重な地域である。アンデルセン公園をはじめ、千葉県立船橋県民の森や大神保青少年キャンプ場などがあり、市民の憩いの場となっている。令和3年4月1日現在の管区内人口は5,888人で、少子高齢化が進んでおり65歳以上の高齢者が36.9%を占め、市内でも高齢化が高い地域となっている。また、管区内の小・中学校は各1校だけで、児童数、生徒数とも減少傾向にある。

2. 地域の課題

- (1) 小学校(6学級156人)・中学校(6学級113人)の児童生徒数が少なく、管区全体の人口も減少傾向にある(R3.4.1 5,888人、R2.4.1 5,991人)。
- (2) 65歳以上の割合(36.9%)が高く「生涯学習に関するアンケート」(以下「アンケート」)の結果、高齢者の孤立が懸念されている。
- (3) 「アンケート」の結果、生涯学習に関する情報を「インターネット」などの電子媒体ではなく広報紙(51.6%)や町会の回覧板など(30.4%)の紙媒体で情報を得ている方が多く、また新たに学習を始めることでは、公民館など公的な機関における講座や教室の割合が多い(49.1%)。
- (4) 「アンケート」の結果、新たに学習を始めることでは、他のブロックより「インターネットに関すること」と回答している方が少ない(24.8%)。

3. 重点目標

- (1) 今後も地域の団体などと連携・協力し、地域の資産を活かした特色ある公民館事業や地域の行事を共催で実施することで、地域住民の交流と豊かな地域づくりを目指していく。
- (2) 行政機関や地区社会福祉協議会などと連携・協力をし、高齢者の健康寿命を延ばし健康で健やかな生活を過ごせるような事業を企画し、高齢者の社会参加と健康の維持・増進を図る。
- (3) 地域の方々が楽しんで参加してもらえるような魅力ある事業や地域の特色を活かした事業を企画し、広報紙や公民館報を通し、学習機会や情報の提供をし、人と人とが交流することで地域の活性化を図る。
- (4) デジタルデバインド事業の拡充を目指す。
- (5) 北部地区公民館の基幹館として地区館との連携を図り、広域事業の実施や施設管理などの支援に努める。

令和4年度二和公民館「地域の状況、地域の課題、重点目標」

1. 地域の状況

二和公民館は新京成線二和向台駅前に位置しており、駅周辺を中心に概ね住宅化されているが地区内には農地も点在している。

地域の北端部に昭和49年4月に設置され、平成3年10月1日、現在地に北図書館・二和連絡所(現出張所)との複合施設として新築移転オープンした。管区内には小学校2校、高等学校1校があり、二和東、二和西の令和3年10月1日現在の世帯数は7,066世帯、人口は16,311人で、65歳以上の人口比率は26.4%であり市平均の24.1%を上まわる。利用者は二和地区を中心に、咲が丘、三咲などの隣接地域に加え、交通の便等、立地条件にも恵まれ新京成沿線の市内各地域や鎌ヶ谷市など広範囲から来館している。

2. 地域の課題

- (1) 二和公民館登録の社会教育関係団体が令和元年7月1日現在88団体から令和4年2月28日現在81団体と減少傾向であるため既存団体の支援および新たな団体の育成が必要である。
- (2) 二和東、二和西の高齢化が市全体を上回る中、引きこもりや孤立を防ぐ対策、生きがいつくり、健康づくりに併せ災害等の情報を得るためのデジタルデバインド対策が必要である。
- (3) 新築住宅や新しい自治会が増える中、地域のつながりが希薄になる等コミュニティの弱体化が懸念される。
- (4) 6歳から12歳を含む世帯の割合が比較的高い地域であるが、児童ホーム等の施設が設置されていないため、青少年の健全育成・居場所づくりに併せ家庭教育への支援が必要である。

3. 重点目標

- (1) 社会教育関係団体を講師に招いた事業の実施や団体間の交流の場を設ける等、活動の成果を発表する事業を実施する。また、様々なライフステージに応じた事業を展開することでサークル化につながるよう支援に努める。
- (2) 高齢者の引きこもりや孤立防止につながる事業を実施するとともに、デジタルデバインド対策、健康づくりにも重点を置き、高齢期を健康で豊かに暮らすための事業を実施する。
- (3) 青少年対象事業および青少年の保護者対象事業、更には親子で参加できる事業の展開により幅広い年齢層の方が集う場として提供する。
- (4) 音響・照明等の機能を有する講堂を、文化・芸術活動推進のため積極的に活用し、主催事業の充実を図るとともに、各種団体によるコンサートや発表会等の利用を支援する。

令和4年度海老が作公民館「地域の状況、地域の課題、重点目標」

1. 地域の状況

海老が作公民館のある大穴地区は、船橋市の北部に位置し、江戸時代に旧大穴村の新田として開拓された地域であり、小字名の「海老が作」を伝承のため館名としている。

昭和45年頃からの宅地開発により急激に人口が増加したが、現在は農地等の市街化調整区域と住宅地が混じり合う景観を見せている。管区は大穴南、大穴北、大穴町全域で、対象人口は令和3年4月1日現在6,323世帯、13,852人、65歳以上の人口比率は38.9%と市内でも高齢化率の高い地域である。

2. 地域の課題

- (1) 高齢化率が市内でも高い地域であり、今後更に高齢化が進んでいくことが予想される。新型コロナウイルスの影響から高齢者の外出や交流の機会が減少したため、介護予防の促進や高齢者孤立の予防に重点を置くことが求められている。
- (2) 青少年と高齢者以外の年代の公民館利用者が少ない。各利用団体の高齢化が顕著であり、活動の継続が困難になってきている。
- (3) 周辺に青少年や子育て世代が気軽に安心して集う場所が少なく、地域でのコミュニケーションが得にくい環境となっている。

3. 重点目標

- (1) 地域の関係諸団体との連携を図りながら、地域におけるふれあいの場や学習の機会を提供するとともに、市民のニーズを取り入れるため市民協働による公民館活動を展開していく。
- (2) 地域の課題である深刻な高齢化に対応していくため、高齢者の仲間づくり、生きがいづくり、健康づくり、デジタルデバイド対策に関する学習・諸活動の推進を図る。
- (3) 多様な分野の学習や芸術文化を提供し、より幅広い世代の市民に公民館を通じて生涯学習に触れるきっかけづくりを行う。
- (4) 青少年育成団体や学校、児童ホーム等と協力しながら、青少年の活動の場を確保するとともに、創作活動や新たな仲間と遊ぶことの楽しさを体得できる取組を実施していく。
- (5) 地域の集いの場として、施設の安全や感染症予防に配慮するとともに丁寧で温かな接遇を心掛け、地域から親しまれる公民館経営に努める。

令和4年度小室公民館「地域の状況、地域の課題、重点目標」

1. 地域の状況

小室町は船橋市の北端に位置し、生活圏は北総の一部であり、隣接する印西・白井の両市との関わりも深い。また、宅地造成で行われた小室台の発掘に際して古墳時代のものとみられる鉄製の長刀やメノウ製の勾玉、琥珀製の管玉等も発掘されており、この発掘により旧石器時代から中世に至るそれぞれの時代に小室地区に人々の営みがあったことが証明されている。

従来、農村地帯であった同町に千葉ニュータウンの一部が造成され、昭和54年3月に入居が始まると、わずか368人ばかりであった人口は、令和3年10月1日現在3,244世帯、6,741人となっている。新規住宅建設は引き続き行われており、子育て世代の入居も多く、人口は増加傾向にある。小室地区は、自然の林が残り、公園や緑地が適度に配置された落ち着いた環境である。

2. 地域の課題

- (1) 地域に商業施設等は少なく、公民館が住民の交流・学習拠点として担うべき役割は多い。
- (2) 管区の15歳未満の割合は令和3年10月1日現在14.08%で、市全体の12.54%より高い割合となっており、子育て世代への支援を拡充していく必要がある。
- (3) 管区の高齢化率は令和3年10月1日現在31.14%で市全体の24.07%より高く、孤立、閉じこもり、認知症、運動機能低下等の割合が年々高くなっていると推測される。また、近年の進むデジタル化に、高齢者が情報弱者となりやすい傾向がある。

3. 重点目標

- (1) 地域住民の様々なニーズを捉え、ライフステージに応じた多様で的確な学習機会の提供に努める。
- (2) 青少年教育の充実を図るため、小室地区青少年健全育成連絡協議会や各種団体、学校等と連携し、青少年の体験学習等健全育成を図る。
- (3) 増加傾向にある子育て世代が、地域とふれあい、地域に愛着がもてるように、併設している児童ホームと共に各種活動の機会を設ける。
- (4) 高齢者が、心身ともに健康で潤いのある生活を送れるよう、地区社会福祉協議会や各種団体と連携し、参加者同士の交流の場と健康増進を図る学習機会の提供に努める。また、高齢者デジタルデバインド対策事業を促進していく。

令和4年度八木が谷公民館「地域の状況、地域の課題、重点目標」

1. 地域の状況

八木が谷公民館管区は、市の北西部に位置し、北は白井市、南は二和、西は鎌ヶ谷市、東は神保町に接している。この地区は、元来山林と田畑を主とする旧豊富村の農村地区で、昭和45年以降急激に人口が増加し、現在は古くからの集落の中心部を除いてほぼ全域が宅地化され、住宅が密集した地域となっている。対象人口は令和3年4月1日現在23,824人で高齢化率35.70%と、市内でも高齢化率が高い地域である。立地は、新京成電鉄三咲駅、又は二和向台駅より北へ徒歩約20分の場所に位置し、管区内には保育園1園、幼稚園2園、小学校3校、中学校1校が設置されている。交通不便地域解消事業により平成25年度から小型バスが運行している。

また、令和元年10月より買い物困難地域を対象とした移動販売が管区内3箇所で開催されている。

2. 地域の課題

- (1) 情報収集、連絡手段としてICTの活用に関心はあるものの、学習の機会が得られず利用が進んでいない高齢者がみられる。
- (2) 核家族化に加え、コロナ禍により人と接する機会が減少し、子ども達、高齢者等の年齢を問わず地域での交流を図る機会が少なくなっている。
- (3) 社会教育関係団体の活動が会員の高齢化や近年の利用制限等により縮小傾向にあるため既存団体の支援に加え、新たな団体の育成を図ることが求められている。

3. 重点目標

- (1) 新型コロナウイルスの感染症拡大に留意し過ごしている人々が、この状況においても充実した生活を営めるよう健康づくり・趣味づくり・教養を高めるものなど多様な事業を実施し、学習意欲を喚起する。
- (2) ICTを活用した便利で楽しい生活ができるように学習の機会をつくる。
- (3) 人口の減少、高齢化が進む地域であっても子供同士や世代間の交流が生まれるような機会をつくり、人との関わりの中で生活していることを知り、地域への愛着、また、地域貢献の意識を育む。
- (4) サークルづくりまでを命題とした事業をおこない、新たな社会教育関係団体の育成を図り利用率の向上につなげる。

令和4年度三咲公民館「地域の状況、地域の課題、重点目標」

1. 地域の状況

三咲公民館の管区である三咲地区は市の北西部に位置し、明治初期頃までは下野牧と呼ばれ、初富(鎌ヶ谷市)二和(船橋市)に続く3番目の開墾地であることから「三咲」と呼ばれるようになった地区である。管区は三咲1～9丁目、南三咲1～4丁目、三咲町の約2.3㎢が対象となっている。この三咲地区の人口は緩やかな増加傾向にあり、令和3年4月1日現在、世帯数は7,311世帯、人口は17,146人である。

立地は新京成三咲駅から徒歩10分、新京成バス三咲東郵便局から徒歩1分という交通の便に恵まれた位置にあり、児童ホーム・老人憩いの家併設ということもあり、対象区域以外の沿線住民にも幅広く利用されている。

2. 地域の課題

- (1) 三咲地区の高齢化率が25%とやや高い状態にあり、また、閉じこもり者・認知症リスク者・物忘れの多い者の割合も高い。また、30分以上歩く者の割合が低く、運動をする機会が減っている高齢者も多いため、対策を講じていく必要がある。さらに長引く新型コロナウイルス感染症の影響で、ますます、地区の高齢者の閉じこもり・運動不足の傾向が進み、認知症のリスクも高まってきていると考えられる。
- (2) 地域の町会・自治会、また公民館の利用サークル等、組織・団体の役員・メンバーの高齢化が進み、地域活動における後継者が不足している。
- (3) 20代から50代の若い世代の公民館の利用が少ない。
- (4) 三咲地区に学校がないことから、学校と連携して事業等を実施するには、近隣地域の学校と連携を取る必要がある。

3. 重点目標

- (1) 地域の高齢者の運動機能の向上・健康寿命の延伸、生きがいづくりに寄与する事業を実施し、高齢者が心豊かにすごせる場を提供する。また、地区社会福祉協議会と協力しながら、高齢者の参加しやすい事業を実施し、地域で閉じこもり傾向にある高齢者の参加を促す。
- (2) 社会教育関係団体・地域団体の活動の支援を行い、社会教育関係団体の育成に努める。
- (3) 併設している児童ホームと連携・協力して、子育て支援事業を実施し、地域の子育て世代が交流できる場を提供する。
- (4) 近隣地域の学校・児童ホーム・地域団体と協力して、青少年が体験・学習できる事業を実施し、青少年の健全育成や居場所づくりに寄与する。
- (5) 今後、大きな災害が起こることを想定して、地域住民を対象に災害対策に関する事業を実施し、防災の知識と対策を共有する。

(6) 現代的課題や地域の課題に取り組む事業、住民の学習ニーズに対応する事業を実施し、成人向け事業の充実を図る。

令和4年度松が丘公民館「地域の状況、地域の課題、重点目標」

1. 地域の状況

昭和29年千葉県豊富村が船橋市に編入された当時、松が丘地区は旧豊富・古和釜地区の一部で地勢は山林と畑が大部分であった。昭和38年頃から50年代にかけて宅地として開発され、現在の地勢は宅地と少しの農地、点在する公園や緑地となっている。管区内には、幼稚園1園、小学校・中学校がそれぞれ1校、高等学校が1校あり、児童ホームが設置されている。住民は各地より移住してきた人が多数を占めている。

管区は松が丘1丁目～5丁目です。令和3年4月1日現在の世帯数は5,962世帯、人口は12,703人、65歳以上の人口比率は39.05%で、市内で最も高齢化率が高い地域である。しかし、船橋市の人口が増加傾向であるのに対して松が丘地区は減少傾向にあり、65歳以上の人口も増加傾向から横ばいに転じている。コミュニティ別人口推移によれば、平成27年を100とした場合、令和7年には87.9%と船橋市の中で最も人口が減少するという推計が示されている。

2. 地域の課題

- (1) 船橋市全体と比較して地域の少子化は進行しているが、平成29年頃から15歳未満の人口が微増に転じており、管区内には幼稚園、小学校、中学校、高等学校があることから、それぞれの成長過程において地域との関わりを持ち地域を愛する心を育む機会が必要である。
- (2) 15歳未満の人口が微増に転じていることから、これまでより子育て世代を対象とした家庭教育や子育てに関する情報にニーズがあると考えられる。
- (3) 令和元年度の生涯学習アンケートによると、松が丘地区の生涯学習に期待する成果として「心身の健康を維持・増進すること」が高い割合であり、スポーツや文化活動に参加したいと考えている人が多い。また、参加してみたい社会活動で「障がい者・高齢者・外国人などの支援に関する活動」「地域の環境保全に関する活動」を挙げた人の割合が高い。
- (4) 令和3年度に実施したデジタルデバインド関係の講座では参加希望者が非常に多く、ITに興味はあるが始めるきっかけをつかめない人が潜在していると考えられる。
- (5) 令和元年度の生涯学習アンケートによると、他の地域と比較して「高齢者の孤立」に対する不安を持つ人の割合が高く、JAGESの結果では閉じこもり者の割合が高いことが指摘されている。また平成28年度高齢者生活実態調査によれば、80%以上の高齢者が「今の住まいに住み続けたい」と考えている。
- (6) 平成元年度24地区市民会議実績報告によると、松が丘地区では安全の分野で災害に関する意見が特に多い。
- (7) 令和元年度の生涯学習アンケートによると、利用したことがある生涯学習施設に「公民館」を挙げた人の割合が他の地域と比較してかなり高い。

3. 重点目標

- (1) 青少年育成団体、学校、児童ホーム等と連携し、青少年の体験活動や主体性を伸ばしていく事業を実施する。また社会教育関係団体や地域住民との協力により、子供同士や地域の大人との交流を図る場や機会を提供できる事業を実施する。
- (2) 家庭教育に関する事業を実施して子育て世代を支援する。
- (3) 地域のあらゆる人が、スポーツや文化活動に参加するきっかけをつかめるような魅力ある事業を計画する。また、持続可能な開発目標(SDGs)を意識した事業により地域での支援活動や環境保全に関心を持つ機会を提供するとともに、各年代にあった広報の方法を検討する。
- (4) コンピュータ、インターネット、スマホなど、様々なITに関する情報格差をなくしていくために、高齢者だけでなく様々な年代に対応したデジタルデバイド対策関連の講座を実施する。またオンライン講座など、新しい生活様式に対応できる方策を検討していく。
- (5) 高齢者が自分らしくそれぞれの生きがいを持ち、住み慣れた地域で健やかに暮らし続けられるよう高齢者事業の充実を図り、高齢者の孤立や閉じこもり防止に寄与する。
- (6) 地域における防災学習の充実や非常時の一人ひとりの心構えについて学習する機会を提供するとともに、館内職員は日ごろから避難所訓練を実施し有事に備える。
- (7) 地域で周知されている生涯学習施設として地域の核となるよう情報収集し、様々な方法で発信していくとともに、サークル活動の支援・育成に努める。また、施設・設備の点検整備を心がけ、利用者が安心して利用できる居心地のよい施設を目指す。

令和4年度坪井公民館「地域の状況、地域の課題、重点目標」

1. 地域の状況

坪井公民館管区は市の北東部に位置し、八千代市に隣接している。令和3年4月1日現在、面積約1.9km²、世帯数4,746世帯、人口12,819人である。

この地区は昭和40年の宅地造成、平成8年の東葉高速鉄道開通、翌年からの土地区画整理事業により人口が急増した。平成19年には市内24番目の地区コミュニティとなった。

公民館周辺には、幼稚園、小中学校、大学があり教育環境が整備され、少子高齢社会の中で、高齢者層よりも新たな住民を中心に子育て世代が多いため、15歳未満人口比率が高い地域である。

2. 地域の課題

- (1) 地震・豪雨などの自然災害に備えるため、地域住民の防災への意識の向上及び災害時の迅速な行動への心の準備を図って行く必要がある。
- (2) 15歳未満人口の人口比率が高い地域であるため、学校の授業とは違った環境での子供たちの体験活動や学校が休みの日の居場所づくりの支援が必要である。
- (3) 土地区画整理による新しい街には65歳未満の人口比率が高いが、従前からの住宅地には高齢者が生活する居住区域も多く見受けられることから、高齢者の生きがいがづくり・仲間づくりの支援が必要である。
- (4) 新型コロナウイルス感染症の蔓延により高齢者が自宅に引きこもりがちとなり、人とのコミュニケーションをとる機会も減っていることから、仲間同士の交流の場を設けること、さらに、外出しないことによる運動不足の状況が生じていることから、身体を動かせる機会の提供を行うことが必要である。
- (5) 地域の人口構成の中心的な世代である40歳～50歳代の働き盛りの住民について、子育てへの支援、繁忙な日常の中で自分を見つめなおす機会を提供することが必要である。

3. 重点目標

- (1) 地域住民の防災意識を高めるため、防災学習の場を提供するとともに、地域の防災について主催者（公民館）と参加者が一緒に考え、体験・実践する。
- (2) 地域の各種団体・機関と連携して子供たちに体験活動や学習の場を提供し、青少年の健全育成・居場所づくりに取り組む。
- (3) 子育て世代・高齢者世代との交流を図り、地域の教育力の向上に向けた事業を展開する。
- (4) 高齢者が家に引きこもらないように、高齢者向け事業を定期的に行い、生きがいがづくり・仲間づくりを支援する。また、高齢者が運動機能を維持するためのきっかけとなる事業を行う。
- (5) 子育て世代を支援する事業、自分の生き方を見つめなおす成人向け事業の充実を図る。